

いま、上関原発建設計画は??

— 埋め立て免許延長問題を中心に(6月議会までの質疑から) —

1. 上関原発に対するこれまでの県との質疑から、山口県の姿勢は、私の追及不足があったとしても、産業界や圧倒的な自民党勢力への配慮からか、自らの主体性がまったくなく、言葉の端々に、なんとか上関原発計画を生き残らせたい、という思いが強そうかがえます。
2. 最近では、建設予定地の約14ヘクタールの海の埋め立て免許延長についての考え方は、県議会を愚弄し、ひいては、県民を裏切っています。
3. 「公有水面埋め立て法13条2」による免許延長の「正当な事由」について、二井元知事は、最後の議会2012年6月議会で、①国のエネルギー政策としての上関原発の位置づけ②新たな安全規準に基づいた原子炉等の施設——の二点を、私に答弁しました。
4. 山本前知事は、二井元知事の①②の法的整理を引きつぐと言っていたのに、突如、2013年3月議会で、②を二井元知事の「認識」と格下げしました。その理由は、2012年12月に安倍政権が誕生したからです。
5. 2012年10月、中国電力は山口県に対し、原発立地予定地の海面(約14ヘクタール)の埋め立て免許延長の申請をしました。
この申請内容について、県は2014年5月、中国電力に6回目の質問をし、その回答は、2015年5月までと、まともな延長の可否の判断を先送りしました。
その文書は、黒塗り、何を聞いているのか、どう答えているのか、情報公開されていません。
また、免許延長の可否について、即刻判断できな

- ければ、延長はだめだ、という判断を下すべきなのが、行政手続法の考え方であり、それに基づく標準処理期間の考え方であるにもかかわらず、県はいたずらに時間をかせぎをしています。
- その理由は、国のエネルギー政策を横にらみしているからです。
6. 村岡知事も、山本前知事の変節方針を引きついでいます。
3月議会・6月議会と藤部副知事は、私の質問に対し、二井元知事の法的整理②は「認識」と答弁しています。
この変節の理由は、以下のとおりです。
2013年7月、②の内容が示されました。
中国電力は、2012年10月に免許延長の申請をしていますので、当然、②はその内容に反映されていません。免許延長の「正当な事由」の法的整理を、二井元知事の①②とすれば、不許可としなければなりません。だから、②を「認識」に格下げしたのです。
 7. ①についても、前述のように、「エネルギー基本計画」に、原発の新増設は明記されていないのですから、免許の延長はあり得ません。
 8. 以上のような内容が、これまでの質疑の経過です。
議会答弁の裏切りは、県民への裏切りです。
議会運営委員会の中で、この裏切り問題を提起しましたが、「見解の相違」の一言で、一顧だにされませんでした。
ものわかりいい議会です!!

双葉町の入口にかかげられたスローガンがむなし! (石川大我豊島区議撮影)



ひき続きの副知事の変節ぶりにたまりかね、議席から「ごますな! 恥を知れ」とヤジを飛ばしました。終了後、一部議員や議会事務局も、それは「不適切発言」という見解なので、副知事に謝罪しました。
後日、大妻女子大学(東京都)の校訓は『恥を知れ』だと、ある人が指摘しました。ということは、不適切用語ではないのですか??

四.岩国基地問題について

佐々木

知事は、住民の安全・安心の確保と、わが国の平和と安全への大きな貢献に見合う地域振興策について、引き続き国に要望すると言われた。政府も、新たな交付金制度の創設を表明した。

これは、石原大臣いわくの「最後は金でしょ!」の発想ではないか。

また、在日米軍再編計画が、なぜ、平和と安全への大きな貢献になるのか。

大谷総務部理事

岩国基地の存在そのものが、地元住民や自治体にとっては大きな負担である。さらに、米軍再編の実施により、騒音被害や土地利用の制限、社会基盤整備にかかわる財政需要の増加など、大きな負担を引き受けることになる。

こうした実情をふまえ、住民の不安解消につながる安全・安心対策や、負担と協力に見合う地